T.RowePrice®
INVEST WITH CONFIDENCE

インパクト志向金融宣言

AO・AM分科会

2024年3月13日（水）17:30～20:00
場所：ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社オフィス

本日のアジェンダ

1. 分科会参加企業およびご出席者ご紹介
2. State of Impact Investing Entering into 2024 欧州を中心としたインパクト投資をめぐる規制整備などの動向について（ティー・ロウ・プライス　Fatna Chelihi）
3. IMM担当会議報告（と引き続き担当者募集）
4. 投資事例共有：日本株式のインパクト投資事例（カディラキャピタル　坂本様）
5. 今後の当分科会活動について
6. 今後分科会で取り上げてほしいトピックについて
7. 次回の会合について

1. 分科会ご参加企業

- アセットマネジメントOne株式会社　（本日ご欠席）
- 一般社団法人　科学と金融による未来創造イニシアティブ
- 一般財団法人　社会変革推進財団

★ **SDGインパクトジャパン**

- カディラキャピタルマネジメント
- 株式会社かんぽ生命保険
- 住友生命保険相互会社
- 第一生命保険株式会社
- 大和証券グループ本社
- ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社
- 日本格付研究所（本日ご欠席）
- 日本生命生命保険相互会社
- 農林中央金庫

★ **三井住友銀行**

- 三井物産オルタナティブインベストメンツ株式会社
- 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 明治安田生命保険相互会社

（オブザーバー参加）

- GLINインパクトキャピタル
- 三井住友信託銀行

2. 欧州を中心としたインパクト投資をめぐる規制整備などの動向について

The State of Impact Investing Entering 2024

Fatna Chelihi
Portfolio Specialist, Global Impact Equity Strategy, T. Rowe Price International (LDN)

Fatna Chelihi is a portfolio Specialist in the Investment Specialist Group within the International Equity Division. She is a vice president of T. Rowe Price International Ltd.

Fatna's investment experience began in 2007, and she has been with T. Rowe Price since 2020, beginning in the Equity Division. Prior to this, Fatna was employed by Schroder Investment Management as a product specialist within the emerging markets equity department. She began her career at Societe Generale Asset Management (now Amundi) as a performance analyst before becoming head of operations for Adelante Asset Management, a dedicated emerging markets fund management company.

Fatna earned a master's degree in finance from ICN Graduate Business School in France.

3. IMM担当会議

- 月に1回開催、Zoom、第2回は3月22日（金）13：00@Zoom
- 各分科会におけるIMM関連のニーズや取り組みについて情報交換や海外の知見、最新動向の紹介を企画・実施、など。
- インパクトファイナンスへの算入基準について取り組み＆「IMMの基本的あり方」について作成
- 12月プログレスレポートに成果物を発表

次回

「分科会にまたがるIMMの共通テーマ」の中からトピックを取り上げていく

2-3トピックに絞ったところでサブグループを立ち上げ議論を行う

➡AOAM分科会の代表として皆さんよりテーマについてご意見を伺います。掘り下げるトピックが決まったところで改めてIMM担当会議への参加者を募ろうと思います。担当者の方には分科会で進捗状況を簡単に報告いただくことを想定しております。

このようなトピックを取り上げてほしい、というご希望がある方は是非安間さん、松本までお知らせください。（直接今田さん宛てでもOKです！）

4. 事例共有：日本株式のインパクト投資事例

カディラキャピタルマネジメント株式会社

取締役 チーフインベストメントオフィサー　清水　裕　氏

福島県出身。慶応義塾大学卒業。1998年に大和証券株式会社に入社後、2001年安田投資顧問株式会社（現明治安田アセットマネジメント株式会社）株式運用部アナリスト、2004年UFJパートナーズ投信株式会社（現三菱UFJ国際投信株式会社）株式調査部アナリストを経て、2005年スパークス・アセット・マネジメント投信株式会社（現スパークス・アセット・マネジメント株式会社）に入社。運用調査本部アナリストを経た後、2012年ファンドマネージャーに就任、日本株サステナブル投資戦略を立ち上げる。2023年7月より当社取締役チーフインベストメントオフィサー、ファンドマネージャーに就任。21年以上にわたるファンドマネジメントと企業分析の経験を持ち、11年以上にわたる日本株式サステナブル投資戦略の運用では、欧州公的年金、UCITS、米国企業年金、米国大学基金、国内公募投信など幅広い投資家からの資金を受託し、先進的なサステナビリティ対応と高い投資リターンの両立を実現。認定マスターコーチ、日本証券アナリスト協会検定会員、日本サステナブル投資フォーラム運営委員。

5.今後の当分科会活動について：3つのテーマ

① アセットオーナーの参画に向けたアプローチ

- インパクト投資をすでに実施しているAO
- 生命保険協会におけるESG投融資推進WG参加社
- アセットオーナー・アライアンス（案）

② インパクト投資について事例共有（金融機関の横連携）

- インパクト投資導入プロセスの紹介
- インパクト投資について開示事例の紹介
- 最終受益者（個人）、投資先企業とのエンゲージメント事例

③ エンゲージメント：2024年「理解の促進」（認知度向上）

- **AO**においてインパクト投資が財務リターンを犠牲にするものではないことについての理解促進が必要 ➡何らかの定量データを紹介
  - インパクトを創出している企業は長期的により成長性が高いという関連性を定量的に見出す試み ➡ 野村証券金融工学研究センター　太田氏による分析を紹介
  - インパクト投資（または責任投資）ユニバースにおけるリスク・リターン特性の分析　（海外の事例やデータを含む）
- インパクト創出を担う**企業**における理解促進
  - 「インパクト」≠企業のパーパス、社会的責任
  - パーパスから事業のKPIへの転換の事例紹介
  - インパクト創出の開示事例紹介
- 最終受益者（**個人**）における理解・認知促進

5. 今後の当分科会活動について

① アセットオーナーの参画にむけたアプローチ

- インパクト投資をすでに実施しているAOへのアプローチ：生命保険協会におけるESG投融資推進WG参加社
- アセットオーナー・アライアンス発足（案）➡12月のセミナー時に発足はどうか？

② インパクト投資について事例共有（金融機関の横連携）

- 当分科会において事例共有を通じ、相互発展をめざす。課題の共有。

  ➔次回の分科会での事例共有者募集！ （導入・投資・エンゲージメント・開示）

- 事例共有を通じインパクト投資市場の発展をめざす。

  ➔**FDSF（6月）**小野塚さんより、**12月分科会主催セミナー**

③ インパクト投資への「理解の促進」を促すエンゲージメント（認知度向上）

- AO➡「リターンとの両立は可能である」 ：定量データ（プログレスレポート、**12月分科会主催セミナー**）
- 企業➡「インパクト投資とは。伝統的な投資との違い」 **JPX共催ウェビナー**（日時、内容、参加メンバーなど）
- 個人➡「インパクト投資とは」「規制」：国内外のインパクト・ファンドの開示事例、取り組みの共有 （次回分科会、**FDSF6月**）

- **分科会（隔月）**
  - 分科会メンバー間による事例**共有**による相互発展、課題の共有・解決
- **FDSF（6月）**
  - 参加者：スタートアップ、SX推進企業、大学・アカデミアなど研究機関や学生、金融機関、政府関係者、メディア
  - インパクト投資の導入・投資/IMM・エンゲージメント・開示の事例を**共有**することで資金の受け手・出し手双方の発展へとつなげる
- **JPX共催ウェビナー（TBD）**
  - 対象：企業発行体
  - インパクト投資と一般的な投資との違い、投資家が求めること、投資家に求められていることを**共有**することでインパクト投資の認知度向上をめざす
- **プログレスレポート、分科会主催セミナー（12月）**
  - 対象：宣言の署名機関、アセットオーナー、政府機関、メディア
  - インパクト投資の現状、海外AOのポートフォリオにおける位置づけ、規制動向、定量データ、事例**共有**、アセットオーナー・アライアンス発足（案）、等

（ご参考）
インパクト志向アセットオーナー・アライアンス発足の提案（構想案）

和文仮称：インパクト志向・アセットオーナー・アライアンス

(英文仮称：Impact-Driven Investment Coalition（略称IDIC））

上場企業の創出するインパクトと企業の成長性・企業価値との関係性に着目して投資を行っていく複数のAOによる意向を表明する。あくまでも成長した上場企業を対象とし、GSG国内諮問委員会のインパクトIPOワーキンググループの活動とは当面は差別化して取り組む。但し、将来的には連携の余地あり。

- 発行体に対して、インパクトと企業価値との関係性の説明を求める。
- 企業価値に繋がるインパクトについて開示のあるべき姿を示す。
- インパクトと企業価値の関係性に関する研究・分析を促す。
- インパクトに着目した投資のためのエコシステム構築を主導する。
- AO（上場株インパクトファンドを営むAMを含む）が資本市場において存在感のあるアライアンスとなる。
- インパクト志向金融宣言のなかでこのアライアンスを発足させる。
- 研究機関・発行体側からも賛同を募る。

インパクトと企業価値に関する問題意識：

① 課題解決＝インパクト創出は企業の価値創造の源泉。

② インパクトを企業価値向上に繋げる企業は現に存在する。

③ インパクトは、従来の上場企業価値のファンダメンタル分析の対象外。

④ インパクトと企業価値との相関性については、発行体企業自身による具体的な説明や引受証券側の分析の進展も不可欠。

⑤ 今までも、短期的収益予想を含む財務情報だけでは株価は説明できておらず、企業の潜在価値（非財務要素）のなかにインパクトの要素が含まれているとの最新のクオンツ分析が行われている。

⑥ AOが連合して、インパクトに着目して適切に投資できるエコシステムを希求するアライアンスを発足させる意味がある。

6. 今後分科会で取り上げてほしいトピックについて

- 当分科会で取り上げるトピック
- IMMで検討してほしいトピック、IMMの課題

等

7. 次回の予定

- 隔月、第三週開催予定
  - 次回は5月8日（水）または9日（木）
  - スタート時間　17：30～

AOAM分科会報告：３月13日開催、17社ご参加（隔月、次回は５月）

①アセットオーナーの参画

- すでにインパクト投資を行っているアセットオーナーへ活動紹介、オブザーバー参加へとつなげる。
- アセットオーナー・アライアンス発足を目指す（年内）

  まずは上場企業へのインパクト投資拡大を主眼に、国内発行体による企業価値向上につながるインパクトの開示、説明を促していく。まずは、関心のあるAOおよび発行体側とも協議しつつ、具体的な取組内容を起案する。

②事例共有による相互発展と市場拡大

- 欧州における動向
  - GIIN：上場企業への投資においてもインパクト投資が可能であること、アディショナリティが認められた。
  - 企業によるポジティブなインパクトの開示が規制に：欧州ではインパクトと財務のダブルマテリアリティによる開示が義務化（2025年）
  - ラベル規制の動向
- 日本株（上場）におけるインパクト投資事例共有

③インパクト投資の理解促進（認知度向上）

- FDSFのカンファレンス（6月）へ参画のお誘い

  本年のテーマは長期投資とインパクト。ご興味のある方は小野塚さんへご連絡を。
- JPXへ共催で発行体（上場）向けウェビナーを提案（９月開催）

  インパクト投資とは何かから、通常との投資との違いなど
- 分科会の活動の総括としてセミナーを開催計画（12月）